平田出張所便り

第22号（1月24日版）

渡り鳥の越冬シーズンのピーク到来！

例年を上回る寒波や降雪により厳しい冬を迎えた島根県東部地域ですが、宍道湖西岸の斐伊川河口付近とその周辺では、大陸方面から飛来した沢山の野鳥たちが加わって連日賑わいを見せています。
渡り鳥では数的にカモの仲間が中心ですが、中でも国の天然記念物で注目されるのがマガンとヒシクイ（マガンの仲間）で、今年も元気な姿を見せてくれています。
特にヒシクイは、斐伊川で確認される個体数が１００羽前後と少なく貴重で、西日本では斐伊川が唯一の集団飛来地とされています。

斐伊川河川敷のヒシクイ

ヒシクイの雄姿

昨年３月に（財）山階鳥類研究所において、３羽のヒシクイに衛星追跡用の発信器を装着して渡りルートの調査が行われました。
その結果、従来北日本で越冬するヒシクイはカムチャッカ経由で飛来することが知られていたのに対し、今回の調査では、出雲から日本海を横断して中国大陸東北部を経由し、オホーツク海を横断してシベリア東部に飛行したことが初めて確認されたそうです。

今季飛来したヒシクイの中に発信器を装着したものが確認されます

マガン（簸川平野）

カルガモ（宍道湖西岸）

マガンやカルガモも一見ヒシクイによく似ていますが、ヒシクイが一回り大きく、くちばしの形やオレンジ色の部分等が異なっています。

～　担当者からのひとこと　～

昨年末、島根県東部の中海周辺地区では鳥インフルエンザの感染が発生し、全国的な騒動となり、多くの関係者がご苦労されたところですが、感染の要因として渡り鳥の関与が挙がっていることに、複雑な思いがします。